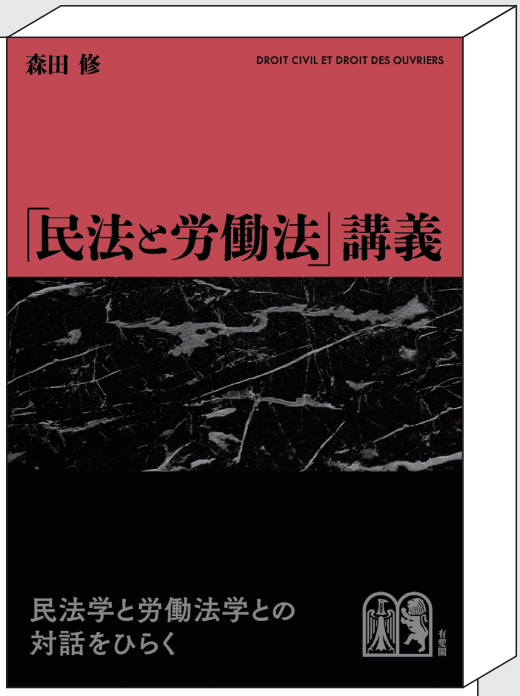
「民法と労働法」講義

森田　修 著



担当編集から　本書は，「民法と労働法」という視点から，「現在の労働法学における労働契約理論や労働判例の展開を民法学の観点から検討する」（本書３～４頁）ものです。本書各講では，問題の所在が示された後，民法・労働法それぞれにおける制度的前提と議論状況が整理されたうえで，民法と労働法の交錯が論じられます。

本書を開いてまず驚くのは，民法学を専門とする森田先生が，労働法学の学説とその変遷を踏まえて学説・判例を詳細に分析される点で，これまでほとんどなされていない民法学の視点からの労働法学説の検討は，それだけで一読の価値があると言えるでしょう。

そのうえで示される「民法と労働法の交錯」は，今後より精緻に労働「契約」を考える契機となるように思います。

教科書だけでは感じられない，民法学の深みと広がり，そして応用の無限の可能性を感じられる本書で，ぜひ法学の醍醐味を感じてください。（渡邉）

詳細を見る

BOOK INFORMATION

レベル：上級
用途：学習　研究
対象：学部　研究　法曹

2025年9月発売／560頁／定価7150円（税込）
A5判／上製

Point　**労働法を学ぶと必ず出てくる著名な判例。まずは気になった判決を扱った講を読んでみませんか。**

序論

第1部　契約規範論と「労働契約」

第1講　契約意思と労働契約（日新製鋼事件）
第2講　契約解釈・補充と労使慣行（商大八戸ノ里ドライビングスクール事件）
第3講　定型約款と就業規則（秋北バス事件）
第4講　契約の法性決定と労働者概念（横浜南労基署長（旭紙業）事件）
第5講　「契約規範の実質原理」と正規・非正規格差（ハマキョウレックス事件）
第6講　契約複合と労働者派遣（パスコ事件）
「民法と労働法」第1部の小括

第2部　契約責任論と「労働契約」

第7講　本質的債務論と労働時間規制（大星ビル管理事件）
第8講　危険負担・受領遅滞と休業手当（ノースウエスト航空事件）
第9講　安全配慮義務論と労働契約（大石塗装事件）
第10講　契約法理論と配転（東亜ペイント事件）
第11講　契約法理論と懲戒（ネスレ日本事件）
第12講　契約解除と解雇（高知放送事件）
第13講　契約の終了と「雇止め」（日立メディコ事件）
結びに代えて

詳細は,小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。